

まちづくり交付金 フォローアップ報告書
旧街道周辺地区

平成22年4月

秋田県大仙市

1. 数値目標の達成状況の確認(確定値)

様式4-① 都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
				評価値	見込み・確定の別	目標達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
指標1	二日町方面からの交通量	台/12H	1,058	845	800	確定 見込み	○	あり なし	●	794	H21年10月	○	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	二日町石持線や駅前3号線等により、旧街道(県道角館長野線)の通過交通量が減少しており、旧街道の歩行者の安全性が向上している。それにより、歩行者の回遊性が高まったと考えられる。
指標2	観光客入込数	人/年	190,000	230,000	169,036	確定 見込み	×	あり なし	●	158,734	H22年1月	×	全体的な観光客の減少に加え、集客力の大きいイベントが天候不順等により集客減となったため、予想以上に観光客数が落ち込んだことが原因と考えられる。 <input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input checked="" type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	天候条件に左右されるイベントなどが多くを占めていることから、天候不順が観光客入込数(目標値)に直接影響を及ぼす結果となった。加えて、観光客を街中へ誘導したり回遊させるためのソフト施策が不十分であったため、事業効果が十分に生かされず、観光客の増加に繋げる事ができなかった。
指標3	駅利用者数	人/年	14,000	15,500	7,335	確定 見込み	×	あり なし	●	8,535	H22年3月	×	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input checked="" type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	2005年3月の市町村合併により事業計画が見直されたこともあり、駅の拠点化が不十分であった。また社会情勢の変化で、観光客の他、通勤・通学の駅利用者も減少してきており、道路や駅舎の整備による効果だけでは、駅利用者数を増加させるには至らなかった。
指標4						確定 見込み		あり なし			H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
指標5						確定 見込み		あり なし			H 年 月		<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-①から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

様式4-② その他の数値指標の確定

指標	単位	従前値	目標値	事後評価				フォローアップによる確定値	計測時期	フォローアップ時点での達成度	確定値が評価値と比較して大きな差異がある場合や改善が見られない場合等		総合所見	
				評価値	見込み・確定の別	達成度	1年以内の達成見込み				理由	改善策の方向性		
その他の数値指標1	羽後長野駅周辺整備満足度	%	20.3	/	50.0	確定 見込み	/	/	/	84.5	H21年10月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	羽後長野駅舎及び駅前広場の整備により、当該駅の利用者の満足度は増加し、整備効果が得られたと考えられる。
その他の数値指標2			/	/	/	確定 見込み	/	/	/	/	H 年 月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	
その他の数値指標3			/	/	/	確定 見込み	/	/	/	/	H 年 月	/	<input type="checkbox"/> 改善策はそのまま <input type="checkbox"/> 改善策に補強が必要 <input type="checkbox"/> 新たに改善策をたてる	

事後評価シート 様式2-1及び添付様式2-②から転記 ※全ての指標について記入

※フォローアップの必要のある指標について記入

※全ての指標について記入

2. 今後のまちづくり方策の検証

様式4-③ 「今後のまちづくり方策」の進捗状況

事後評価シート 添付様式5-③に記載した今後のまちづくり方策(事項)		実施した具体的な内容	実施した結果	今後の課題 その他特記事項
・成果を持続させるために行う方策	旧街道の歩行者の安全性と回遊性の向上	旧街道交通量調査	大型車は二日町石持線へ移行したが、小型貨物車の通行量は比較的まだ多くある	二日町石持線への車両交通の転換を促進させるとともに、継続して歩行者の安全性確保を図るなど更なる取り組みが必要
改善策 ・まちづくりの目標を達成するための改善策 ・残された課題・新たな課題への対応策 ・その他 必要な改善策	観光情報拠点・回遊拠点としての羽後長野駅舎の活用	観光案内パンフレットの設置	パンフレットをもとに各観光スポットなどに向かう観光客が増えつつある	旧街道の観光スポットへ更に誘導するための工夫が必要
	イベントPRの強化			
	各観光地点との連携強化			
	羽後長野駅舎駐車スペースの確保	駅前広場の整備を行い、新たな駐車スペースを確保	駅前広場に駐車し、歩いて買物や回遊する人が増えつつある	観光客への更なるPRが必要

事後評価シート 添付様式5-③から転記

様式4-④ フォローアップにより新たに追加が考えられる今後のまちづくり方策

追加が考えられる今後のまちづくり方策	具体的内容	実施時期	実施にあたっての課題 その他特記事項
道の駅から旧街道への観光客誘導強化	<ul style="list-style-type: none"> ・本地区への観光客全体に匹敵する道の駅の来訪者を積極的に旧街道へ歩いて回遊してもらうよう、見所や楽しさをさらにPR強化する。 ・案内板・観光パンフレット等の整備 ・伝統的なお祭りの他、独自のイベントを開催するなど、回遊の目的ときっかけづくりに努める。 	22年度	<ul style="list-style-type: none"> ・地元商工会や民間の非営利団体等と協力し、官民協働によるPR活動や案内や情報提供を密に行うことが必要。 ・統一性のあるサインの配置・デザインの検討、PRパンフレットの内容検討などが必要。 ・規模を問わずイベントなどを数多く開催し、それをきっかけとして観光客が旧街道に来訪するような仕掛け作りを進めることが必要。

都市再生整備計画(精算報告)

旧街道周辺地区

秋田県 大仙市(旧中仙町)

平成22年4月

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	秋田県	市町村名	ダイセンシ キョウカセンマツ 大仙市(旧中仙町)	地区名	キョウカイドウウヘゾク 旧街道周辺地区	面積	166 ha
計画期間	平成 16 年度	～	平成 20 年度	交付期間	平成 16 年度	～	平成 20 年度

目標

- 大目標：旧街道の街並み保存と交通結節点の整備改善による、観光振興を目的とした地域づくり
- 目標1：旧街道の街並み保存と安全な歩行空間の確保を図る。
- 目標2：交通結節点としてのJR駅舎の機能を充実させることにより利便性の向上を図り、駅前広場との一体整備することで中心市街地の賑わいを再生する。
- 目標3：歴史資源等を活かした魅力ネットワーク(観光周遊コース)の設定による滞留型観光により集客数の増加を目指す。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

- ・大仙市中仙地域(旧中仙町)は、秋田県南部にあたる仙北郡の中央東部に位置している。東西18.25km、南北10.50kmで、面積は78.92km²であり、西に出羽丘陵、東に奥羽山脈が連なり、西から東へ進むにしたがい、標高を増しており、この間に拓けた農用地は、仙北平野第1位の穀倉地帯となっている。直近の住民基本台帳によると、人口は11,775人(3,281世帯)となっており昭和55年以降一貫して減少し、少子高齢化が進んでおり、町の基幹産業である農業を取り巻く情勢も大幅に変化している。
 - ・当地区は、江戸時代から商業の中心拠点として発展し、現在でも寺社や酒造や黒板塚等の歴史的資源が残されている。また、玉川と斉内川に囲まれており、古くは舟運の拠点である川湊が栄えるなど、町と人の形成に歴史と水が密接に関係している。また、本町は、ドンパン節発祥の地としても著名であり、役場前のドンパン広場においては、毎年旧盆の8月16日に「ドンパンまつり」が開催しており、現在では約5万人の観衆を集める町の一大イベントになっている。また、毎年10月の第3土・日には、同広場でうさぎの大きさを競う「全国ジャンボうさぎフェスティバル」が3万人ほどの観衆をあつめ開催している。
 - ・このように古い佇まいが残る旧街道周辺地区ではあるが、町民の生活様式の変化により、近年、風情ある街並みが失われつつある状況にある。また、旧来からの市街地であるため、道路幅員が狭小であり、安全な歩行者空間が確保できない。これらのことから、平成13年11月、歴史ある街並み保存のために「中仙町旧街道周辺街並み景観事業構想」を策定し、町では旧街道地内を景観整備地域に指定するとともに、「町並み景観保存整備要綱」を策定し、黒板塚の保存・新設を積極的に支援している。
 - ・一方、本町の鉄道の玄関口である、JR羽後長野駅前地区は、当地区の中心拠点に位置づけられ、街なか観光の回遊拠点として、また、観光客と地元との交流拠点として活性化を図ることが期待されるが、十分な広場が整備されておらず、また、観光等の地域情報の発信も不足していることから、まちの顔として機能していない状況にある。
 - ・当地区内においては、近年、民間観光業者により酒造が新たな観光スポットとして紹介され、観光客が徐々に増加しつつあるものの、局所的な整備に留まっているため、観光客の回遊行動が見られない。また、酒造の他、佐竹北家の歴史を織り交ぜた滞留型観光、ドンパンまつりや全国ジャンボうさぎフェスティバル等、本町では、数多くのイベントが開催されているが、地区内の道路整備が十分でなく、また、情報提供等のサインも十分でないため、観光客が街なか観光を行う際の利便性が低くなっている。
 - ・このような状況下において、地元のまちづくり活動の取り組みとしては、
 - ①二日町町内会では、平成13年度ポケットパーク事業により整備した二日町公園の管理を自主的に行っており、また既存黒板塚の保存と新設を推進する補助制度(町単独)を活用して、これまで3件の改修があった。
 - ②平成8年6月に組織された駅前活性化委員会では、平成9年11月に駅舎改築と駅前整備について町に対して要望書を提出する傍ら、独自の活動としてこれまで10駅の視察を行ったり、平成15年10月には「汽笛とともに―長野駅前庁内83年のあゆみ」を刊行している。以上のとおり、駅前町内会を含め駅舎を核とする整備の気運が高まっている。
- また、町商工会では駅前を中心とした商店街の活性化について、独自の勉強会を開催しており、町観光協会でも町のすべてが魅力ある博物館としてパンフレットを作成し、町ぐるみ探訪を実施している。

課題

- ・幅員狭小である旧街道の交通量の削減を図りながら、黒板塚、水路を保存活用した街並みの形成と安全な歩行空間を確保する必要がある。
- ・旧街道周辺地区のバイパスの路線の整備により、二日町地内の通過交通量の削減を図り、安全な歩行空間を確保するとともに、車の利用者には点在する施設へのアクセスと回遊性の向上を図る。
- ・駅前地区では、交通結節点としてのJR駅舎の機能を充実させ、駅前広場と一体化した整備を行い、まちの顔づくりを行うとともに、各観光スポットの回遊性を容易にし(駅(鉄道、道、川)間のネットワーク化を図る必要がある。
- ・有用な観光情報を提供するとともに、地域住民との交流等により町の顔や心意気の解る地区を形成する。
- ・鉄道・道・川の駅のネットワークの形成を図ることにより、通過型観光から滞留型観光への施策の転換を図るような、新たな魅力ネットワークの設定等を行い、町の活性化を図る。

将来ビジョン(中長期)

- 旧街道周辺地区では、安全な歩行者空間が確保され観光客の周遊が容易になり、駅舎と一体整備された駅前地区では町の玄関口としてふさわしい賑わいを生み出す。
- ・平成8年3月策定の第2次中仙町総合発展計画や平成13年3月に見直された第2次中仙町総合発展計画・後期発展計画を基に、中仙町旧街道周辺町並み景観整備事業構想が策定され、拠点、エリア、ネットワークの保存、整備、創出を図ることで町の魅力を高め、中仙町に住む人にとって誇りが感じられ住み続けたい町に、観光客にとっては訪れてみたい町とすることとしている。
 - ・具体的には、第2次中仙町総合発展計画で、自然を活かした観光振興、生活交通の円滑化、地域文化の保存と活動支援とした方向が示され、中仙町旧街道執念町並み景観整備事業構想では、魅力ネットワーク化整備構想、川湊整備構想、二日町景観整備構想、ポケットパーク整備構想、羽後長野駅前周辺施設整備構想として位置づけられている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	目標値
				基準年度	目標年度
二日町方面からの交通量	台/12H	二日町方面からの乗り入れ交通量	交通量の2割がバイパス利用と見込み歩行者空間の安全性が向上	1,058	845
観光客入込数	人/年	平成14年秋田県の観光客入込数の内当地区に立ち寄った人数	平成14年観光客入込数の2割増を目指す	190,000	230,000
駅利用客数	人/年	JR羽後長野駅利用者(大仙市合併資料)	駅前のセンター施設利用者の増加と情報機能等の強化により駅利用者数の約2割増を目指す	14,000	15,500

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針1 「駅前周辺の快適環境空間の確保、地域資源を活かしたアメニティの向上」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・JR羽後長野駅(「鉄道の駅」)の改築と駅前広場の整備を行い、憩いの駅前空間づくりを行う。また、交通結節点としての機能の充実と町の情報や話題を提供できる地域とするため、一体的な整備を行い、まちの顔として機能させる。 ・歴史・文化や自然探訪の周遊コースの中に酒蔵や佐竹北家の歴史を織り交ぜて街なか観光の利便性の向上を図り停留型観光を目指す。 ・平成9年に整備された「道の駅」周辺の斉内川河川敷広場を整備し、それぞれ歴史・文化の異なる「鉄道・道・川の駅」を地区の拠点とする魅力ネットワークの形成を図る。 	<p>地域生活基盤施設(基幹事業／広場(駅前)、広場(河川敷広場))、駅舎整備(提案事業)</p>
<p>整備方針2 「地域が誇れる快適なまちづくり」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路幅員の狭小な旧街道(県道角館長野線)のバイパス整備を行い、二日町地内の通過交通量の削減を図り、歩行者の安全性を確保する。 ・黒板塀や文化・歴史等周遊ルートを案内し利用者の回遊性の向上を図るとともに、点在する公共施設へのアクセスの向上と利便性の向上を図る。 	<p>地方道路整備事業(基幹事業)</p>
<p>その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事業終了後の継続的なまちづくり活動 旧街道周辺地区の景観保全整備については、引き続き随時町で支援する。また「まちづくり条例」に基づいて公園の管理等積極的な自治会(二日町町内会)活動を期待する。長野駅前活性化推進委員会からは、駅周辺の施設の維持管理等(清掃活動等)申し入れがあるので積極的な活動を支援する。 ●まちづくりの方策について 町では、平成15年12月に「まちづくり条例」を制定し、まちづくり活動事業や環境美化活動事業を行った自治会や非営利団体に対し積極的な支援を行うことを決定している。 	

